

チームエッフェガーラ

市村真太郎 レースレポート

2010年3月28日

Festikap スプリントシリーズ 第1戦

ヤマハSSオープンクラス(参加8台)

フェスティカサーキット

フレーム : birel RY31

エンジン : YAMAHA KT100SD

タイヤ : プリヂストン SL07

エンジニア: 加藤 真(レーシングサービス エッフェガーラ)

メカニック: 川口 彰(チーム エッフェガーラ)



◆今大会にむけて目標、意気込み

昨年からエントリーしているフェスティカップですが、周りのペースについていけずほとんどレースが出来ないというなげな状態でした。この状況から抜け出す為、シーズンオフはチーム員のひよろりん津村氏と共にかなり走りこみました。

今大会は、その練習の成果を発揮し自分の実力を出し切る後悔のないレースをしようと思います。

◆レース結果

TT 8位 (33.113)

予選 DNF

決勝 8位(33.306)

◆シリーズランキング

8位 (1.5ポイント)

第1戦終了時点

◆レースレポート

公式練習:路面温度が低くタイヤの皮むきに時間がかかると思われた為1周目から攻めて行きました。前に3選手をおいてペース比較をしましたが、最初の5周にアドバンテージがあることがわかりました。「今日は行けちゃうかも～」という良い勘違いもできなかな良いセッションだったと思います。

TT:前に公式練習と同じ相手をおいて挑みます。やはり前半6周目まではこちらのタイムが上回りますが、7、8周目で離されてしまいました、ミスもありまとめ切れなかったのもありますが、トップからは0.6秒も離される結果には正直へこみました。去年と何も変わってない……

予選:TTまでの結果をみて10週+ウォームアップラップなので若干エア圧を落とし、前半周りのタイヤが暖まる前に勝負する気持ちで挑みます。ウォームアップラップで十分タイヤを暖めてスタート。スタートはまあまあ決まり1コーナーへイン側が詰まったのでラッキーと若干アウトに振って抜けようとしたときアウトにスピンしている車両が……よけきれず横からヒット、車と体を壊す結果となり、リタイアしました。狭い視野が露呈された結果となりました。

決勝:「加藤さん」はじめチーム員の協力のおかげでシャフトが曲がっていたカートは元通り。元通りにならない体の為、押しがけ出来ないのは「バ〜ミヤン」「ゆうき」のおかげで座ったままの殿様スタート。「本当、恩返しをしたい、熱いレースをみんなに見せたい」という気持ちで挑みました。でも、結果は7位から8秒も離されるブッチギリのビリ。泣けるほど悔しい、情けないと思ったのは初めてでした。

◆レースを終えて

去年はレースになり良いタイヤを履いた時の違いや、低い路面温度での違いに慌てていたのが今回は落ちついて走ることが出来ました。タイヤが温まる前も自信を持って走れました。走りこみの成果は若干ですが出ているのかなと思います。またレースは一人でやっているのではなくチームでやってるという実感をとても感じました。曲がったシャフトを鮮やかに直してくれた「加藤さん」、冬の特訓で教えてくれた「塾長」、寒い中寒い格好でメカをやってくれた「バ〜ミヤン」、見た目からは想像できないパワーで押しがけしてくれた「ゆうき」、チーム員のみんながいなかったら私は走ることも出来ませんでした。同時に多くの足りないものも分かったので次戦に向けて改善していこうと思います。

◎足りないもの

①速さ：4つタイヤの状態を感じ、食欲に一番良い走る場所を探すこと。とにかく走りこむ！！

②広い視野：遠くを見るだけでなく広い視野を持って常に練習すること。

③ミスのない走り：TTの8周前後でミスなくベストラップを出す集中力。

④女子カート部